




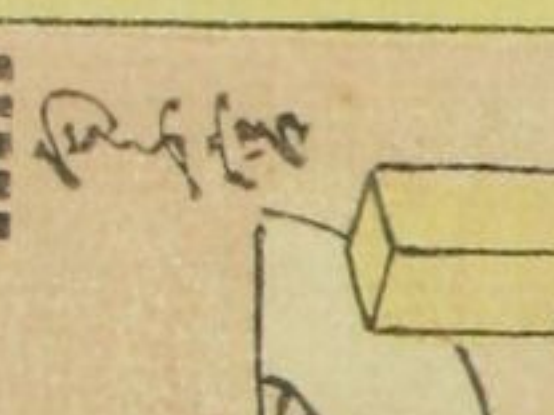
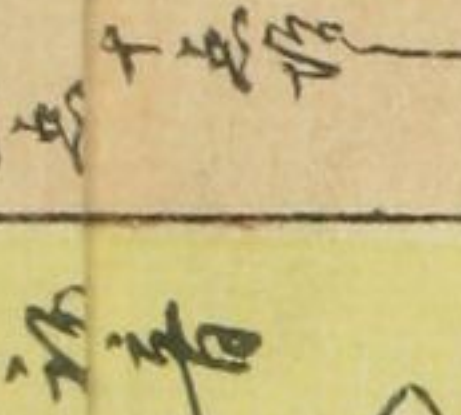
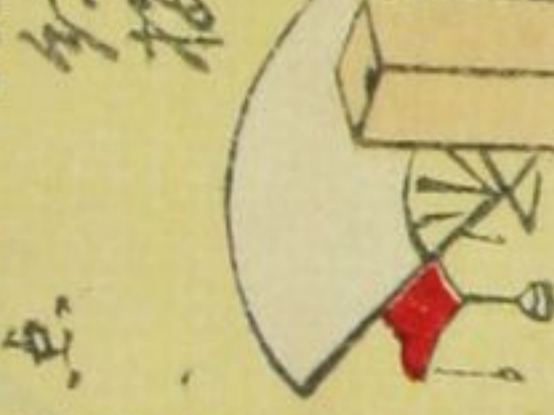
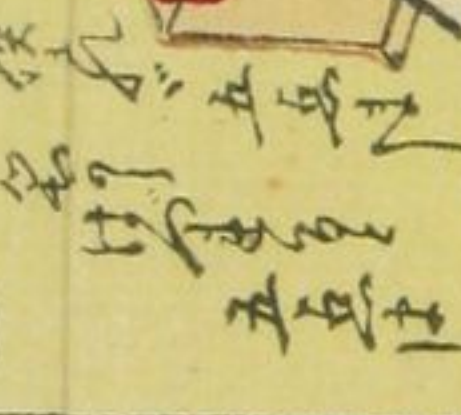

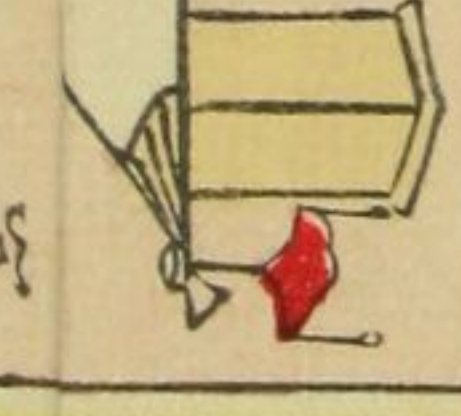


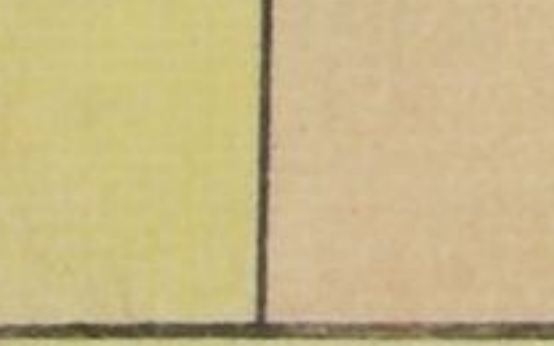
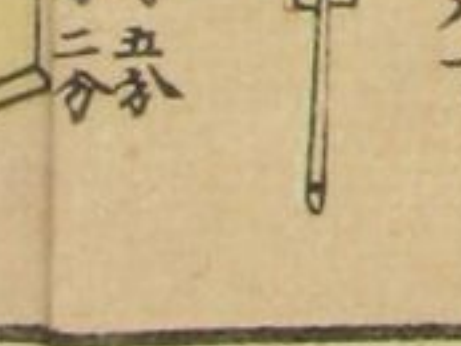
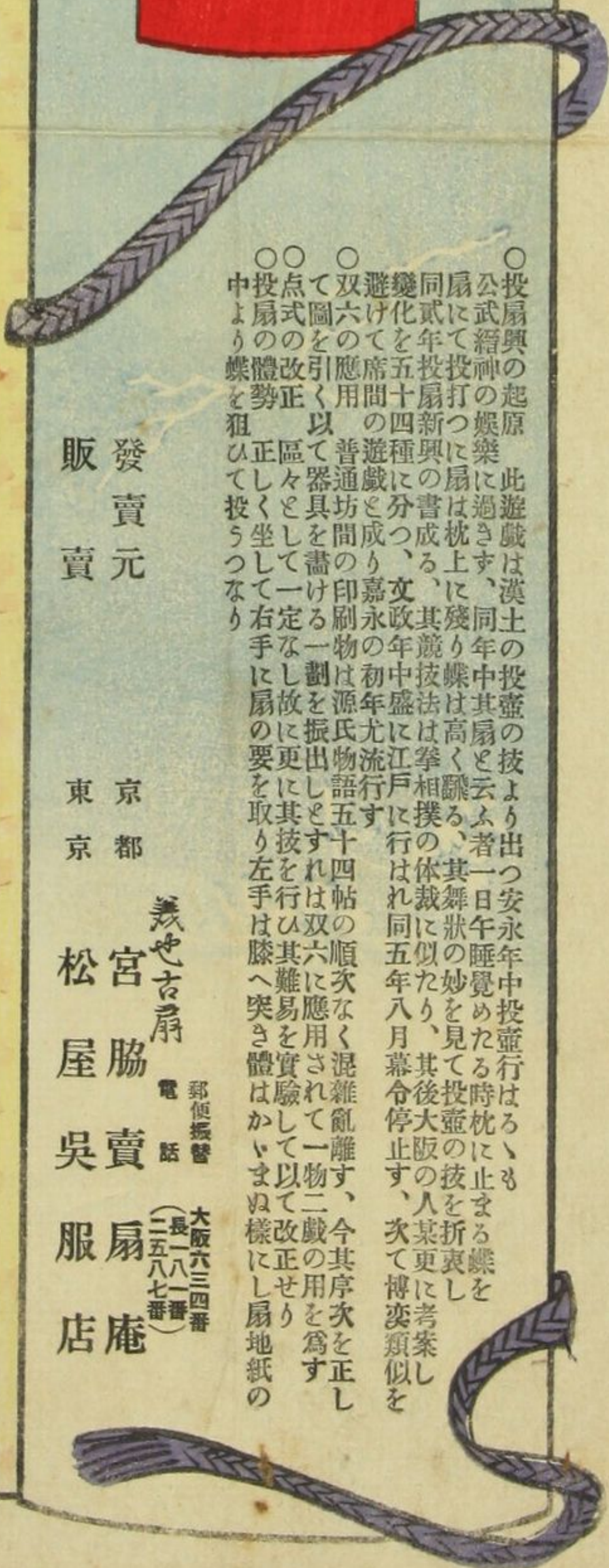
 朝顔 三 二	 朝顔 三 八
 朝顔 三 六	 朝顔 三 五
 朝顔 三 五	 朝顔 三 五
 朝顔 三 五	 朝顔 三 五
 朝顔 三 五	 朝顔 三 五
 朝顔 三 五	 朝顔 三 五
 朝顔 三 五	 朝顔 三 五
 朝顔 三 五	 朝顔 三 五

投扇興點式 雙六應用

○投扇興の起原 此遊戯は漢土の投壺の技より出つ安永年中投壺行はるゝも
公武精神の娛樂に過ぎず、同年中其扇と云ふ者一日午睡覺めたる時枕に止まる蝶を
扇にて投打つに扇は枕上に残り蝶は高く跳る、其舞狀の妙を見て投壺の技を折衷し
同武年投扇興の書成る、其技は擲の體裁に似たり、其後大阪の人某更に考案し
變化を五十四種に分つ、文政年中盛は江戸に行はれ同五年八月幕令停止す、次て博奕類似を
雙六の應用の普通坊間の印刷物は源氏物語五十四帖の順次なく混雜亂離す、今其序次を正し
て圖を引く、以て器具を畫ける一定なし故に其技を行は難易を實驗して以て改正せり
○點式の改正 區々として一定なし故に其技を行は難易を實驗して以て改正せり
○投扇の體勢 正しく坐して右手に扇の要を取り左手は膝へ突き體はかまね様にし扇地紙の
中より蝶を狙ひて投うつなり

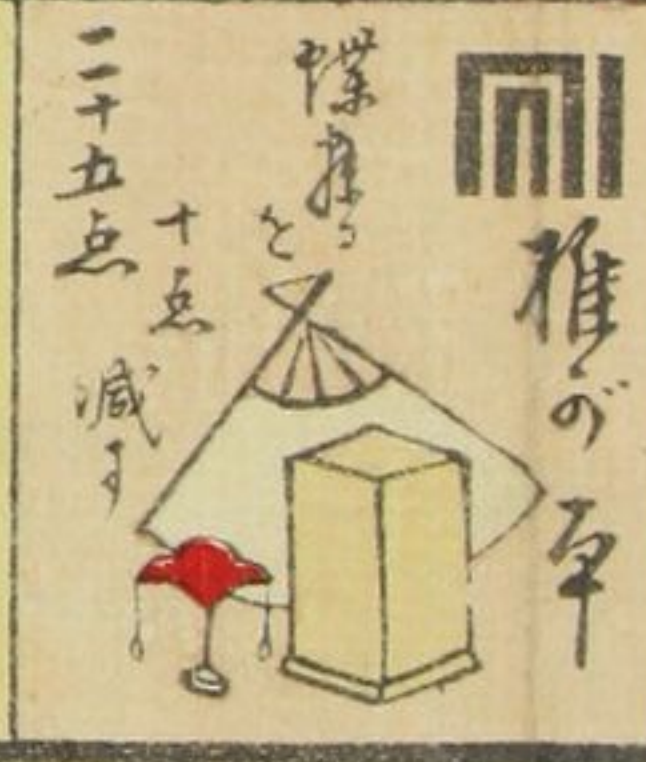
發賣元
東京 京都 松屋 吳服店
義地古扇 郵便振替 大阪六三四番 長一八七番 電話 (三五八七番)



<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>
<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>
<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>
<p>上リ</p>		<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>
<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>
<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>
<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>	<p>扇 一 五</p>

發賣元
販賣
東京 京都
松宮 屋脇
吳賣 服扇 店庵
(三五七七番)

三十五点
九千点



三十五点

三十五点

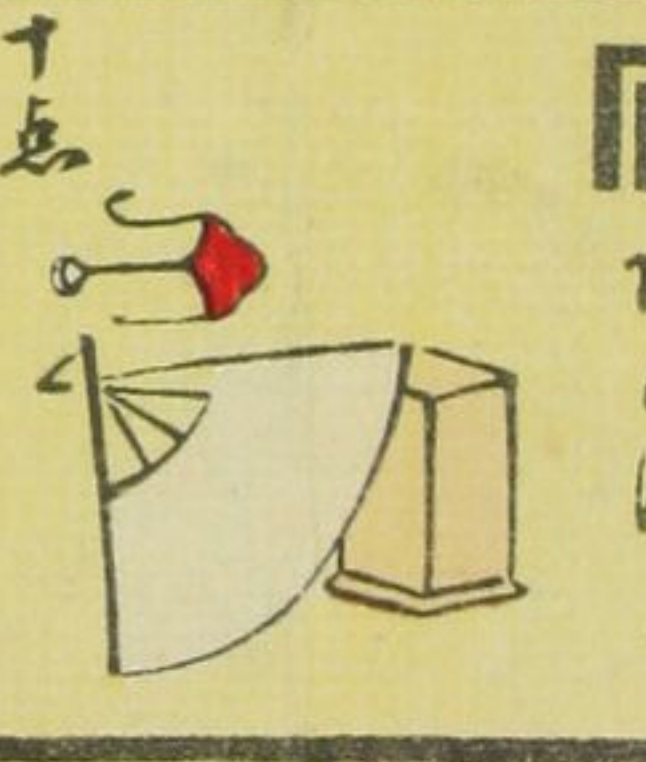
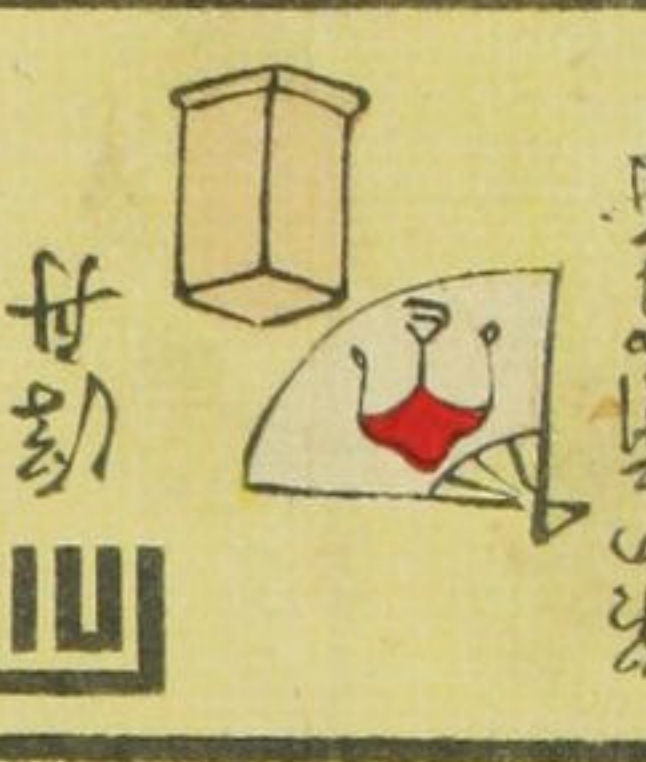
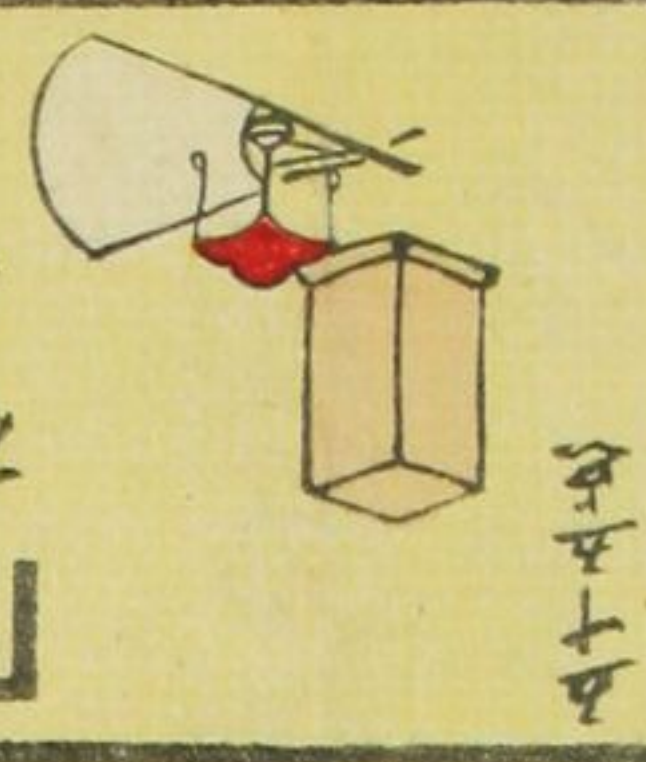
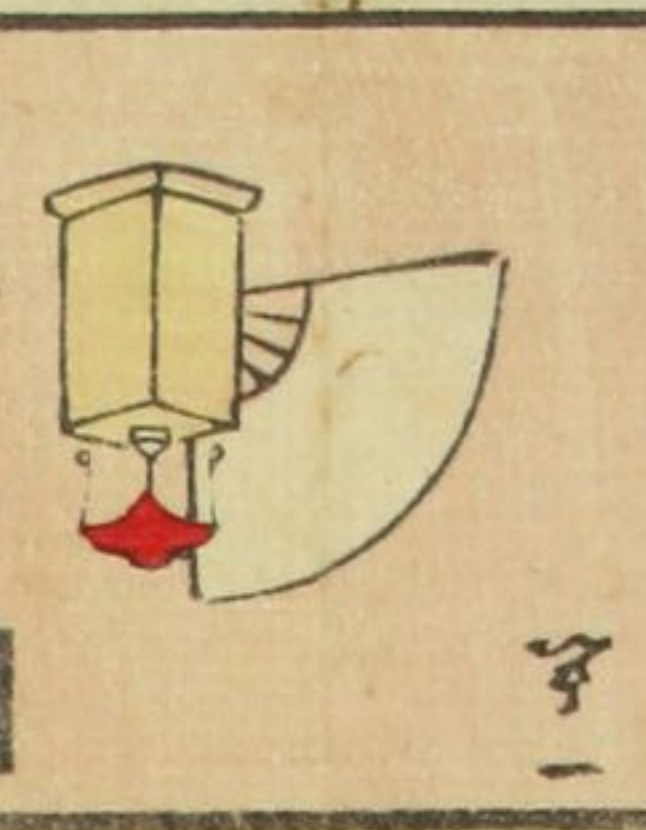
三十五点

三十五点

三十五点

三十五点

三十五点



三十五点

三十五点

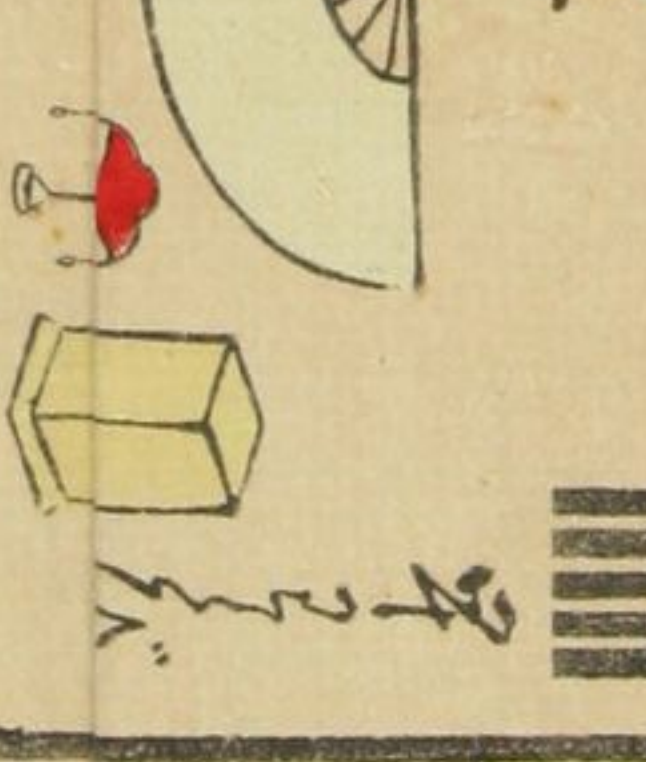
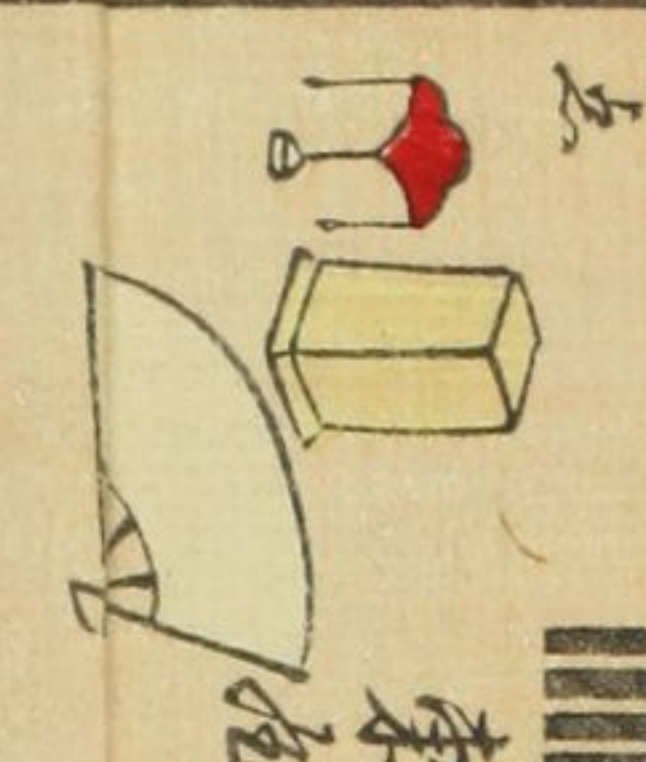
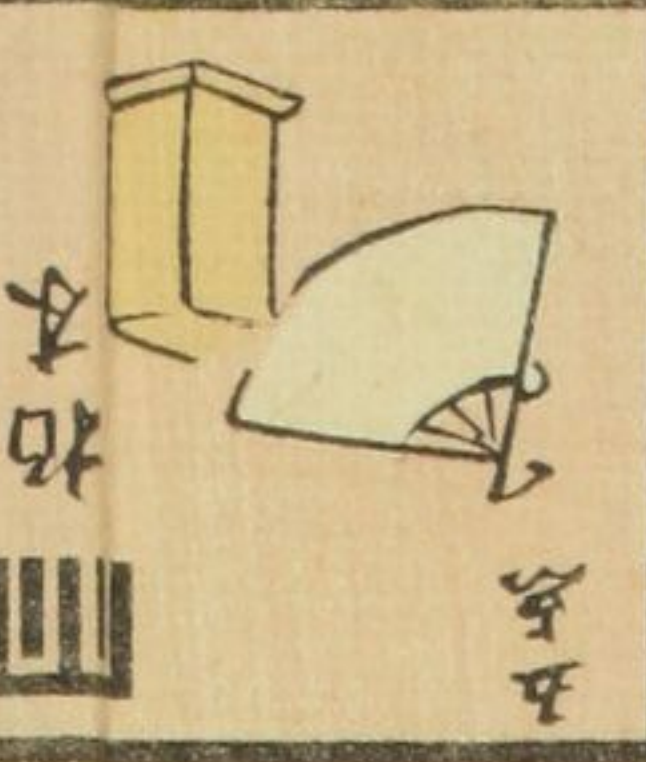
三十五点

三十五点

三十五点

三十五点

三十五点



三十五点

三十五点

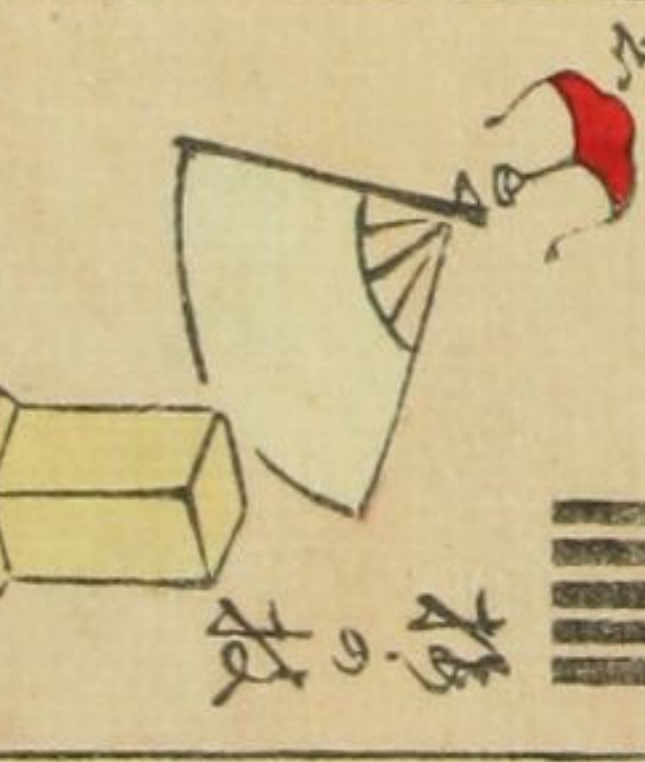
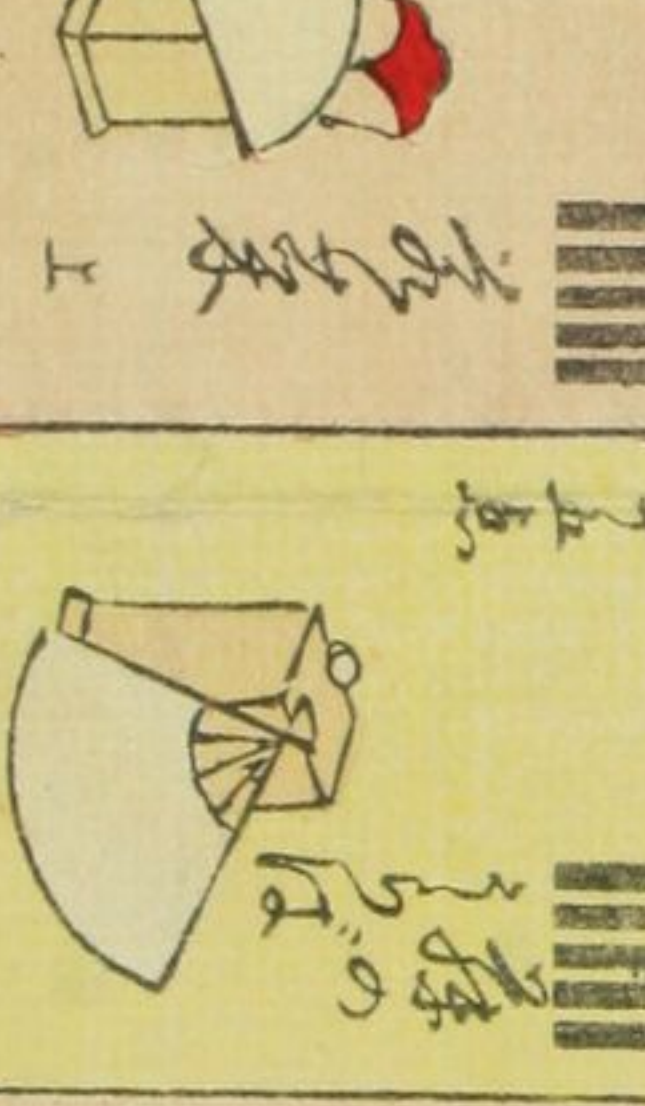
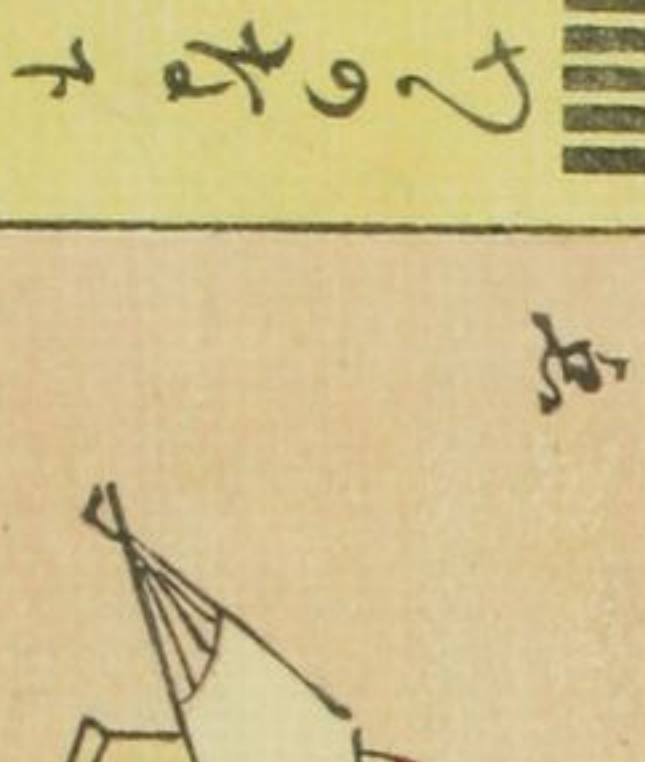
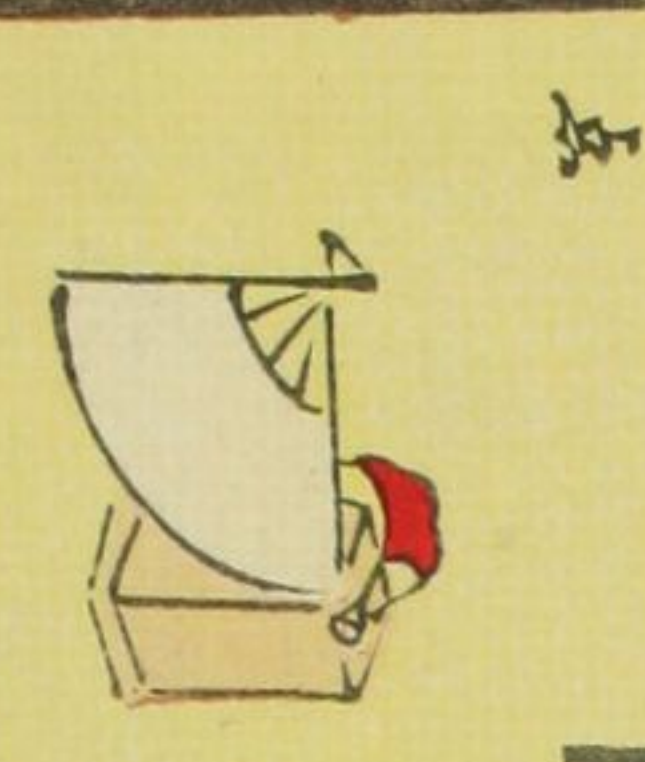
三十五点

三十五点

三十五点

三十五点

三十五点



三十五点

三十五点

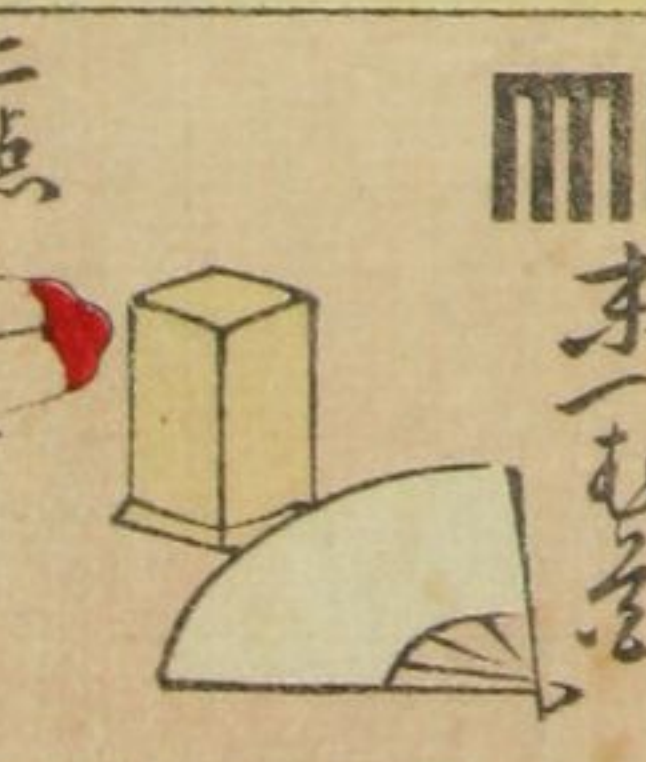
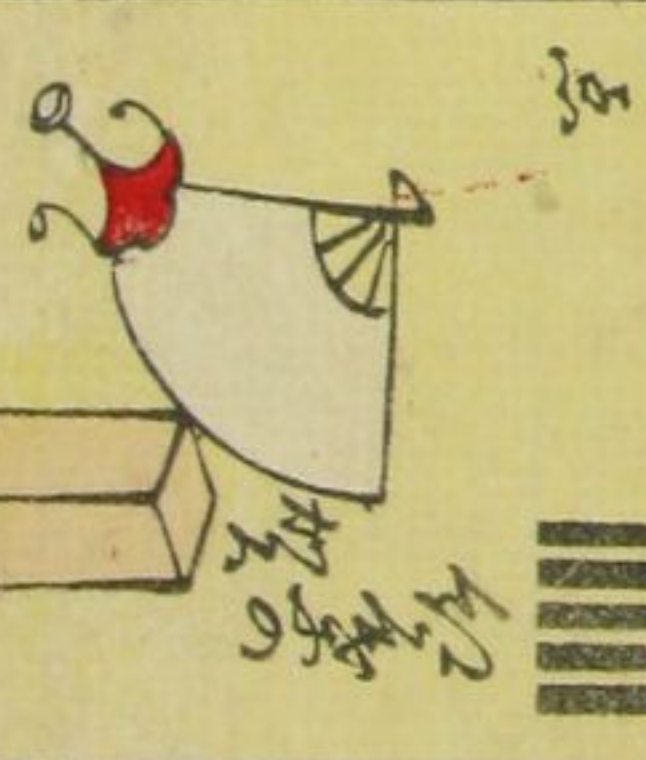
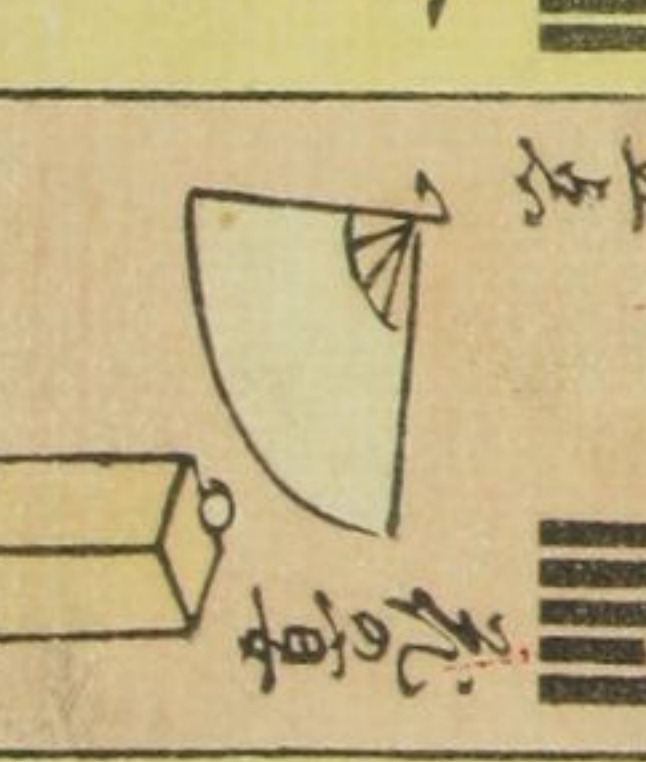
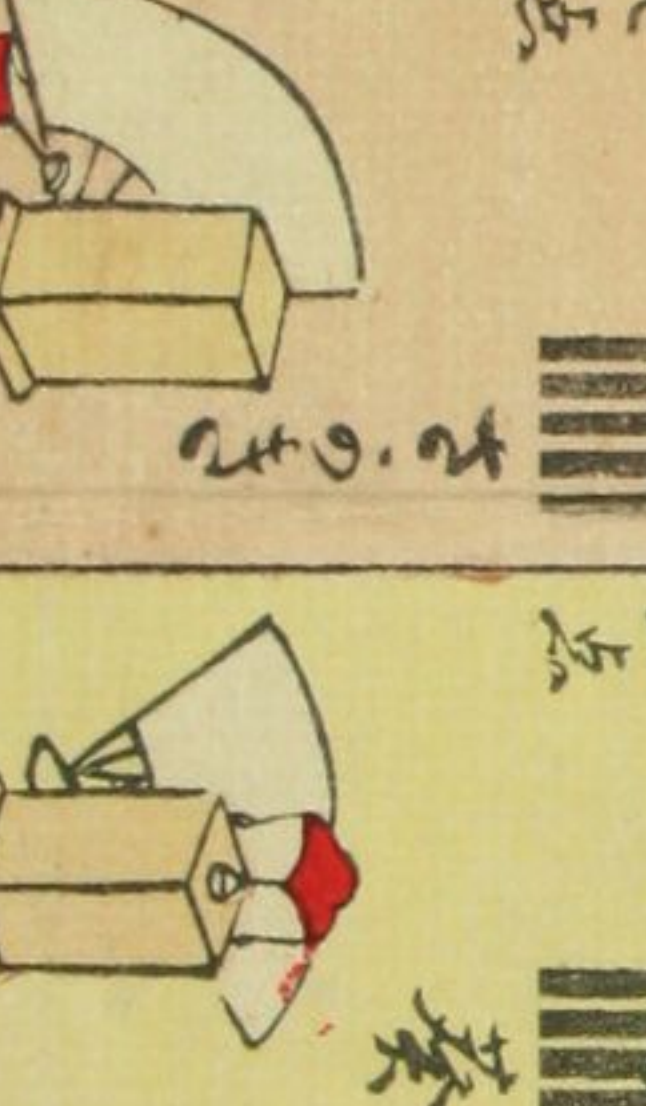
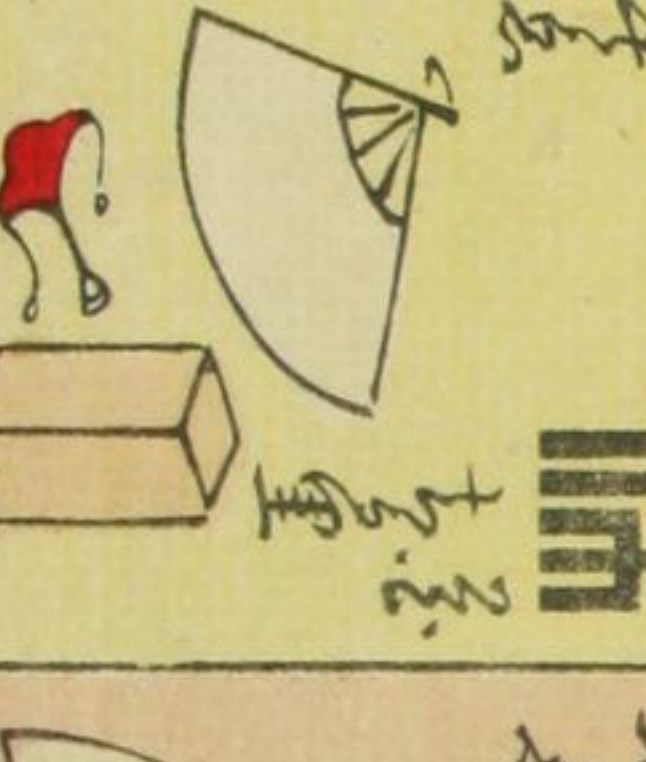
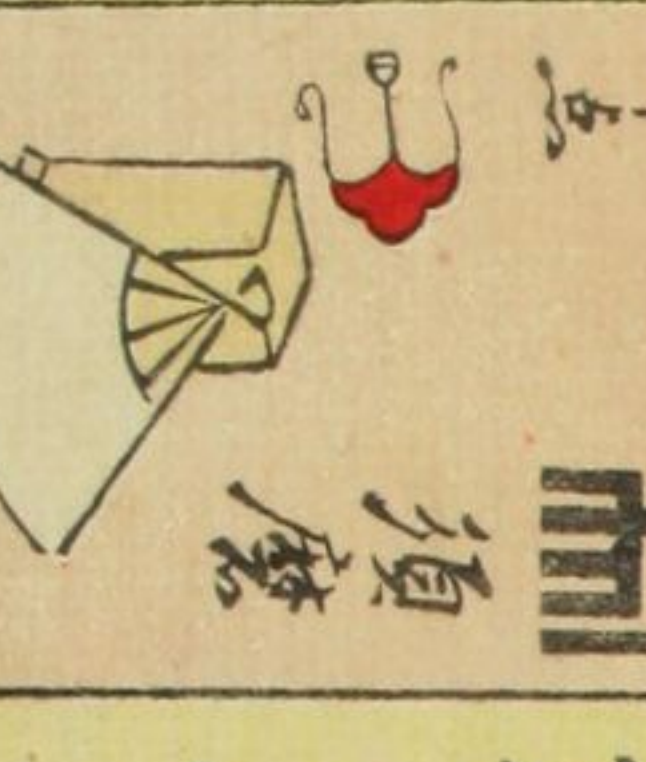
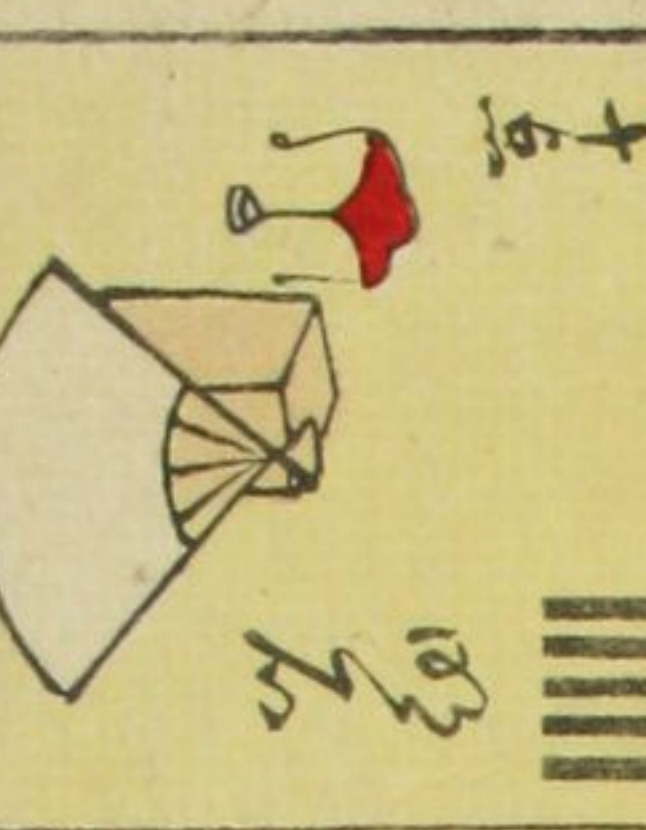
三十五点

三十五点

三十五点

三十五点

三十五点



三十五点

三十五点

三十五点

三十五点

三十五点

三十五点

三十五点